

コシヒカリの穂肥は生育診断に基づき施用しよう!

— 重点事項 —

- ◎ 幼穂形成期以降は、間断かん水～飽水管理を徹底し、根の活力維持に努める。
- ◎ 穂肥は、生育診断結果と気象予報を考慮して、施用時期と量を判断する。
- ◎ カメムシによる斑点米発生防止のため、農道・畦畔の草刈りと薬剤防除を徹底する。

1 6月25日現在の出穂期予想 ～平年より2日程度早い見込み～

品種名	出穂期* (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツ kg/10a)
		1 回目		2 回目		
こしいぶき	7/26	7/3	(23)	7/12	(14)	2～3
コシヒカリ	8/ 6	7/19～7/22	(18～15)	7/27	(10)	1～3

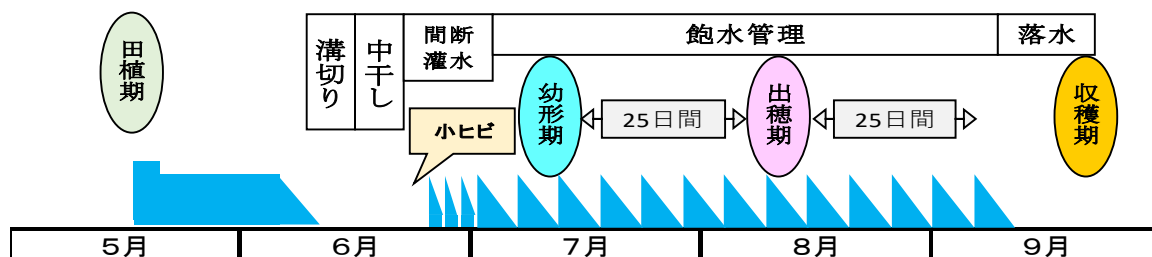
*こしいぶきは5月5日、コシヒカリは5月10日田植えでの予想日

※出穂期は気象条件で変動するので、必ずほ場の幼穂長を確認しましょう。

2 中干し終了後の水管理 ～根への酸素補給を忘れずに!～

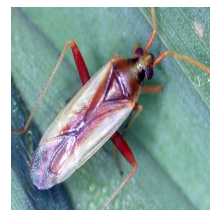
- 中干し終了後は浅水の間断かん水から飽水管理（溝や足跡に水があるうちにかん水を繰り返す方法）に移行し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。
- 幼穂形成期以降は、ほ場を過度に乾かさないように飽水管理を徹底しましょう。
- 異常高温・強風フェーン時は、水不足にならないように速やかにかん水しましょう。
- 極端な深水管理や長期間の湛水は根を傷め、下葉枯れにつながるため避けましょう。

【水管理のイメージ図】



3 カメムシ類の増殖源を無くしましょう

- 草刈りと適期防除で斑点米被害ゼロを目指しましょう。
- 下記の重点推進期間を中心に畦畔・農道の草刈りを徹底し、カメムシ類の増殖源（穂や実を付けた雑草）を無くしましょう。
- アカスジカスミカメは本田内の雑草でも増殖します。ヒエ、ホタルイ等が目立つほ場はできるだけ抜き取りましょう。
- 本田の薬剤防除は出穂後に確実に実施しましょう。



アカスジカスミカメ

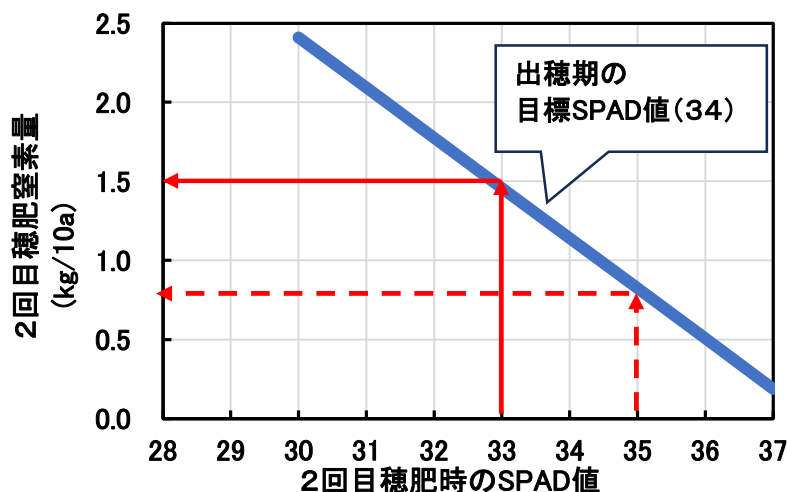
草刈り重点推進期間（第2回）7月4日～7月13日まで!

○コシヒカリの 1 回目の穂肥施用は、下表の生育診断に基づき慎重に対応しましょう。

○コシヒカリの 1 回目の穂肥施用は、下表の生育診断に基づき慎重に対応しましょう。

回	時期・幼穂長・外観	規定量施用が出来る生育目安	施用量
1 回目	【出穂 18～15 日前】 ● 幼穂長：1 cm	●草丈：75 cm以下 ●茎数：420 本/m ² 以下 50 株植え：28 本/株以下 60 株植え：23 本/株以下 ●葉色（SPAD）：32.5 以下	●窒素成分 1.0～1.2kg/10a ☆草丈が長い場合や葉色が濃い場合は、施用量を少なくしましょう
2 回目	【出穂 10 日前】 ● 幼穂長：10cm ●止葉と次葉の 葉耳間長±0cm	●（下図参照） 2回目穂肥時の SPAD 値と出穂期の目標 SPAD 値（34）から 2 回目穂肥窒素量を判断します。	【例】 ●SPAD 値が 33 の場合（) ↓ 窒素成分 1.5kg/10a 施用 ●SAPD 値が 35 の場合（) ↓ 窒素成分 0.8kg/10a 施用

※1回目の穂肥時期に低温・少照・多雨の場合は控えめにしましょう。



図：コシヒカリ2回目の穂肥
のめやす（分施栽培）

○6月24日に新潟地方気象台が発表した3ヶ月予報(7~9月)では、平年より気温が高いと予想されています。高温気象の品質向上に向けた後期栄養確保のため、コシヒカリの1回目穂肥を施用しなかった場合でも、2回目の穂肥は確実に施用しましょ
う!

○有機入り肥料を施用する場合は、施用時期を2日程度早めましょう。

○2回目の穂肥施用後も葉色が淡い場合は、3回目の穂肥を準備しておきましょう。

区 分	追加穂肥が必要な場合	施肥時期	施用量(窒素成分)
基肥一発	出穂 10 日前までに SPAD 値が33を下回った場合	出穂 10 日前まで	1.0 kg/10a



技術情報の受信を希望される方は左記 QR コードからお申込みできます。
必要事項を記入の上、お申込みください。